

情報通信審議会 情報通信技術分科会 公共無線システム委員会
技術的条件作業班 既存放送業務との検討アドホックグループ（第2回）議事要旨

1 日時

平成21年11月24日（火） 16時00分～17時00分

2 場所

総務省8階 801会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

大堂 雅之（情報通信研究機構）（グループリーダー）、小野 光洋（富士通）、片柳 幸夫（日本テレビ放送網）、加藤 数衛（日立国際電気）、川島 修（エフエム東京）、川島 徳之（フジテレビジョン）、志賀 康男（警察庁）、清水 隆司（電波産業会）、菅並 秀樹（日本放送協会）、高田 仁（日本民間放送連盟）、竹内 嘉彦（日本無線）、成澤 昭彦（パナソニック）（代理：川瀬 克行）、深澤 知巳（TBSテレビ）、三浦 洋（ニッポン放送）、村上 信高（TBSラジオ&コミュニケーションズ）、柳内 洋一（日本電気）、山崎 高日子（三菱電機）（代理：岡部 和幸）、吉野 洋雄（テレビ朝日）、吉本 博（テレビ東京）、渡辺 信一（文化放送）、渡辺 知尚（総務省消防庁）

(2) 事務局

新田 隆夫（重要無線室長）、根本 朋生（重要無線室課長補佐）、林 義也（基幹通信課課長補佐）

4 議事

(1) 放送関係無線局の諸元等について

資料2028-AHG-2-2等に基づき、片柳構成員から説明が行われた。

主な質疑については以下のとおり。

竹内構成員 熱雑音電力と想定外来雑音のどちらを計算に使用すべきか。

菅並構成員 固定回線の熱雑音は装置の規格書の値を転記したもの。今回の干渉計算は想定外来雑音で行うことが適当である。

ただし、固定局については山間部に設置されることもあるので、都市モデルの雑音ではなく郊外モデルの雑音レベルとすることが適当と考えられる。

竹内構成員 空中線利得等の空中線の諸元は送・受信で共通か。

菅並構成員 共通の値で問題ない。

(2) その他

前回の議事要旨案については、会議の場では特段の意見は出なかった。

また、前回の資料のうち 2028-AHG-1-4 及び 2028-AHG-1-5 については、資料の位置づけを明確にするため、今回参考資料 1 及び参考資料 2 として配布したものを総務省ホームページに公開することとなった。

次回の日程については後日改めて連絡することとなった。